

●クロルピクリン錠剤適用病害虫の範囲及び施用方法

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつなを除く)	萎黄病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
こまつな				2回以内 (床土1回以内)	
キャベツ	苗立枯病	1㎡当り 10錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
はくさい	黄化病	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
うり科野菜(すいか、 きゅうり、メロン、にがうり、 うり類(漬物用)を除く)	疫病・白絹病 つる割病・センチュウ類				2回以内(床土1回以内)
にがうり					3回以内(床土1回以内、 圃場2回以内)
うり類(漬物用、 ただし、漬物用メロンを除く)					2回以内(床土1回以内、 圃場1回以内)
漬物用メロン					
すいか	つる割病 一年生雑草	1㎡当り 10錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
きゅうり	苗立枯病	1㎡当り 10～20錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和 する。	
	疫病・白絹病 つる割病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	ホモブシ根腐病	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
メロン	苗立枯病	1㎡当り 10～20錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和 する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	疫病・白絹病 つる割病・黒点根腐病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	つる割病 黒点根腐病 一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
トマト、 ミニトマト	苗立枯病	1㎡当り 10～20錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和 する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	萎凋病・青枯病 苗立枯病・センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	萎凋病・一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
	青枯病	1㎡当り 10～15錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10～15錠処理」地表面に所定 量を散布処理する。	
		1㎡当り 15～20錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り15～20錠処理」地表面に所定 量を散布処理後、深耕ロータリーを用いて混和 処理する。	

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
ピーマン	萎凋病 疫病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥> 床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に 1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	青枯病 一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
	苗立枯病	1㎡当り 10～20錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和 する。	
とうがらし類	萎凋病 疫病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	苗立枯病	1㎡当り 10～20錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和 する。	
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
いちご	萎黄病 疫病 炭疽病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	萎黄病 一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
なす	青枯病 半身萎凋病	1㎡当り 10錠	1回	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸<床土・堆肥> 床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に 1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	苗立枯病	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1㎡当り 10錠処理」地表面に所定量を散布、混和する。	
ほうれんそう	萎凋病 立枯病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	立枯病・一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
	萎凋病	1㎡当り 8～10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り8～10錠処理」地表面に所定 量を散布処理する。	

●クロルピクリン錠剤適用病害虫の範囲及び施用方法

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
レタス、非結球レタス (サラダ菜を除く)	根腐病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
サラダ菜	根腐病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
セルリー	萎黄病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
アスパラガス	立枯病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
にんじん	紋羽病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
ごぼう	黒あざ病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内)
ねぎ	白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
わけぎ、あさつき	白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
たまねぎ	疫病 苗立枯病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
豆類(種実、 ただし、いんげんまめを除く)、 豆類(未成熟、 ただし、さやいんげん、 未成熟そらまめ、さやえんどう、 実えんどうを除く)	立枯病 白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
さやいんげん	立枯病 白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
未成熟そらまめ	立枯病 白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
実えんどう いんげんまめ	立枯病 白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
さやえんどう	立枯病 白絹病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	2回以内 (床土1回以内)
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
さやえんどう	萎凋病	1㎡当り 8~10錠	1回	土壌くん蒸(播種溝又は植溝処理) <圃場>畦立後、畦面播種溝又は植溝に8錠の 場合は10cm間隔、10錠の場合は8cm間隔で 点状に配置する。	2回以内 (床土1回以内)

●クロルピクリン錠剤適用病害虫の範囲及び施用方法

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
ばれいしょ	青枯病 センチュウ類	1穴当り 1錠	1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
かんしょ	立枯病 つる割病 紋羽病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
さといも	センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
こんにゃく	白絹病 紋羽病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	
やまのいも	根腐病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	
	一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数		
うこん	青枯病	1㎡当り 20錠	1回	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り20錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	1回		
しょうが	根茎腐敗病	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸(植溝処理) <圃場>畦立後、畦面植溝に8cm間隔で点状に 配置する。	2回以内 (床土1回以内)		
		1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。			
葉しょうが みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	根茎腐敗病 一年生雑草	1㎡当り 10錠		土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。			
にら	白絹病 一年生雑草						
パセリ オクラ	立枯病						
にんにく	イモグサレセンチュウ						
たばこ	立枯病 わい化病 センチュウ類	1穴当り 1錠		1回	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。	1回	
	一年生雑草						
花き類、観葉植物 (カーネーション、さく、 りんどうを除く)	萎凋病 萎黄病(フザリウム菌) 株枯病(フザリウム菌) 乾腐病(フザリウム菌) 球根腐敗病(フザリウム菌) 立枯病(フザリウム菌) 葉枯病(フザリウム菌) 腐敗病(フザリウム菌)	1㎡当り 10錠		2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	
	カーネーション	萎凋病 立枯病 センチュウ類	1穴当り 1錠		土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。		
萎凋病		1㎡当り 10錠	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。				
さく	白絹病 立枯病 半身萎凋病 センチュウ類	1穴当り 1錠	土壌くん蒸 <床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み 30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。 <圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠 処理する。				
	萎凋病	1㎡当り 10錠	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。				
りんどう	立枯病	1㎡当り 6錠	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り6錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。				
		1㎡当り 10錠	土壌くん蒸 <圃場>「1㎡当り10錠処理」地表面に所定量を 散布処理する。				
かんきつ (苗木)	温州萎縮病	1㎡当り 20錠	1回		土壌くん蒸 <圃場>深さ15cmと45cmの位置のそれぞれに 1㎡当り10錠をばら撒き散布する。		1回

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- (1) 病原菌は、土壌中ばかりでなく収穫後の作物残渣にも高密度に生息しているので本剤処理前に必ず残渣を取り除くこと。
- (2) 土中でのがスの拡散は土に適当な湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目が出る程度の時に処理するのが適当である。
- (3) ガスが土中で十分拡散するように耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから本剤を処理すること。
- (4) 温度が低いとガス化が悪く十分な効果が得られない事もあるので、原則として地温7℃以上の時使用すること。本剤処理後土壌からガスが抜ける期間は土壌条件、気温等により異なるので、右表を参照にくん蒸すること。なお、鍬を入れ臭いが残っているとき等ガス抜きが不十分な場合は、よく切り返し完全にガス抜きを行ってから播種または移植すること。特にうり科野菜は本剤に弱いので注意すること。

平均地温	くん蒸期間
25～30℃	約10日
15～25℃	10～15日
10～15℃	15～20日
7～10℃	20～30日
- (5) 本剤を床土・堆肥に使用する場合は、以下の事項に注意し、処理後10日以上経過してから播種又は移植すること。
  - ① 「1穴当り1錠処理」の場合は、床土・堆肥を30cmの高さに積み、30×30cm毎に深さ15cmの穴をあけ、本剤を所定量内包装のまま施用し、直ちに覆土し更に30cmの高さに積み上げ、これを繰り返し最後にポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
  - ② 「1㎡当り10～20錠処理」の場合は床土・堆肥を30cmの高さに盛土をして、その地表面に本剤を所定量内包装のまま施用し、直ちに混和して速やかにポリエチレン、ビニール等で被覆する。水分が全くない床土は処理1週間前に灌水をして、本剤処理時に僅かな水分が保持されるよう乾燥すること。「1㎡当り10錠処理」の場合も上記に準じて処理すること。
- (6) 本剤を圃場に使用する場合は、以下の事項に注意すること。
  - ① 「1穴当り1錠処理」の場合は、耕起・整地後30×30cm毎に深さ15cmの穴をあけ、本剤を所定量内包装のまま施用し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。播種溝処理、植穴処理の場合も圃場処理に準じて処理すること。
  - ② 「1㎡当り10錠処理」の場合は、耕起・整地後、1㎡当り10錠を地表面に散布する。その後トラクターのロータリーで混和・覆土し、直ちにポリエチレン、ビニール等で被覆する。処理後10日以上経過してから植付けすること。また、混和しない場合は、耕起・整地後1㎡当り10錠を地表面に散布した後、直ちにポリエチレン、ビニール等で被覆し、処理後10日以上経過してから、植付けする方法もある。「1㎡当り8～10錠処理」、「1㎡当り6錠処理」、「1㎡当り10～15錠処理」の場合も上記に準じて処理すること。
  - ③ 高設栽培等架台上の培地に使用する場合は、適度に湿り気を持たせた培地の表面付近に30×30cm毎に本剤を1錠、内包装のまま施用し、直ちに、ポリエチレン、ビニール等で被覆すること。被覆は、薬剤がベッドの下部等から散逸しないように施設床面まで覆うようにすること。処理後10日以上経過してから植付けすること。またベッドの発泡スチロールには、直接、本剤が触れないようにすること。
  - ④ トマト、ミニトマトに「1㎡当り15～20錠処理」で使用する場合は、耕起・整地後1㎡当り15～20錠を地表面に散布する。その後、深耕ロータリーを用い深さ40～50cm程度まで耕運、混和し、直ちにポリエチレン、ビニール等で被覆する。処理後10日以上経過してから植付けをすること。
  - ⑤ 土壌くん蒸(播種溝又は植溝処理)で使用する場合は、耕起・整地後1㎡当り8錠処理は10cm間隔、1㎡当り10錠処理は8cm間隔に1錠で播種溝又は植溝に本剤を点状に配置し、覆土をせずに直ちにポリエチレン、ビニール等で被覆する。処理後10日以上経過してから播種又は植付けすること。
- (7) 本剤をかんきつ(苗木)に使用する場合は、予め病株を伐採、伐根した後開墾し、深さ15cmと45cmの位置のそれぞれに1㎡当り10錠をばら撒き散布する。散布後直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。処理後20日以上経過してから植え付ける。
- (8) 本剤処理前にアルカリ肥料、特に消石灰を施用すると作物に薬害を生じるおそれがあるので、これらの肥料は、ガス抜き後に施用するか、又は本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (9) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (10) 外包装を開封した際は、必ず全量を使い切ること。
- (11) 外包装開封後、内包装された錠剤はポリバケツ等、別の乾燥した容器に移し施用すること。

- (12) 内包装に使用されている袋は、ガス不透過性、水溶性のもので、処理後土壌水分により溶解し、クロルピクリンガスの放出が始まる為、施用前に内包装に水分が付着しないように注意すること。
- (13) 本剤処理後、もし被覆しない場合は、十分な効果が期待できず、クロルピクリンが急速に気化し、周辺農作物に被害を及ぼすおそれがあるので直ちに土壌表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
- (14) 作物の育成中には薬害を生じるので使用しないこと。また周辺の作物にガスが触れると薬害を生じることもあるので注意すること。
- (15) 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (16) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等の関係機関の指導を受けることが望ましい。

## ⚠ 安全使用上の注意

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないよう注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖めながら直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与すること。
- (2) 本剤に使用している包装は水溶性のため、濡れた手で作業しないこと。
- (3) クロルピクリンは催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (4) クロルピクリンは、皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (5) 本剤の外包装の開封及び投薬作業の際は吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。外包装の開封は屋外にて風下に向かって行うこと。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼すること。
- (6) クロルピクリンが衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身につけないこと。
- (7) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- (8) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意すること。
- (9) 拡散ガスによる危被害を防止するため、本剤処理後は必ずビニール等で被覆を行うこと。特に住宅周辺での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
- (10) ハウス等で使用する場合には、出入口、天窓、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11) 本剤は水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (12) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## ■保管

- (1) 直射日光をさけ、なるべく低温で鍵のかかる場所に厳重に保管すること。尚、開封した薬剤は貯蔵しないこと。